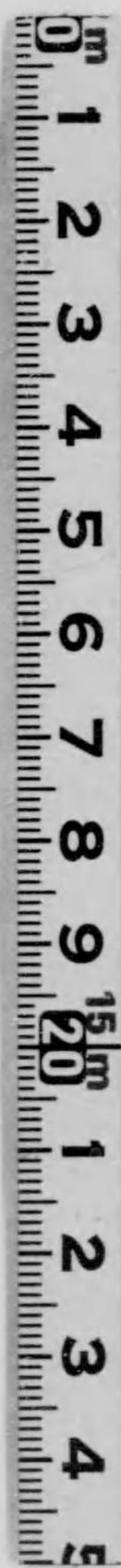


長歌小入心之り

15

413

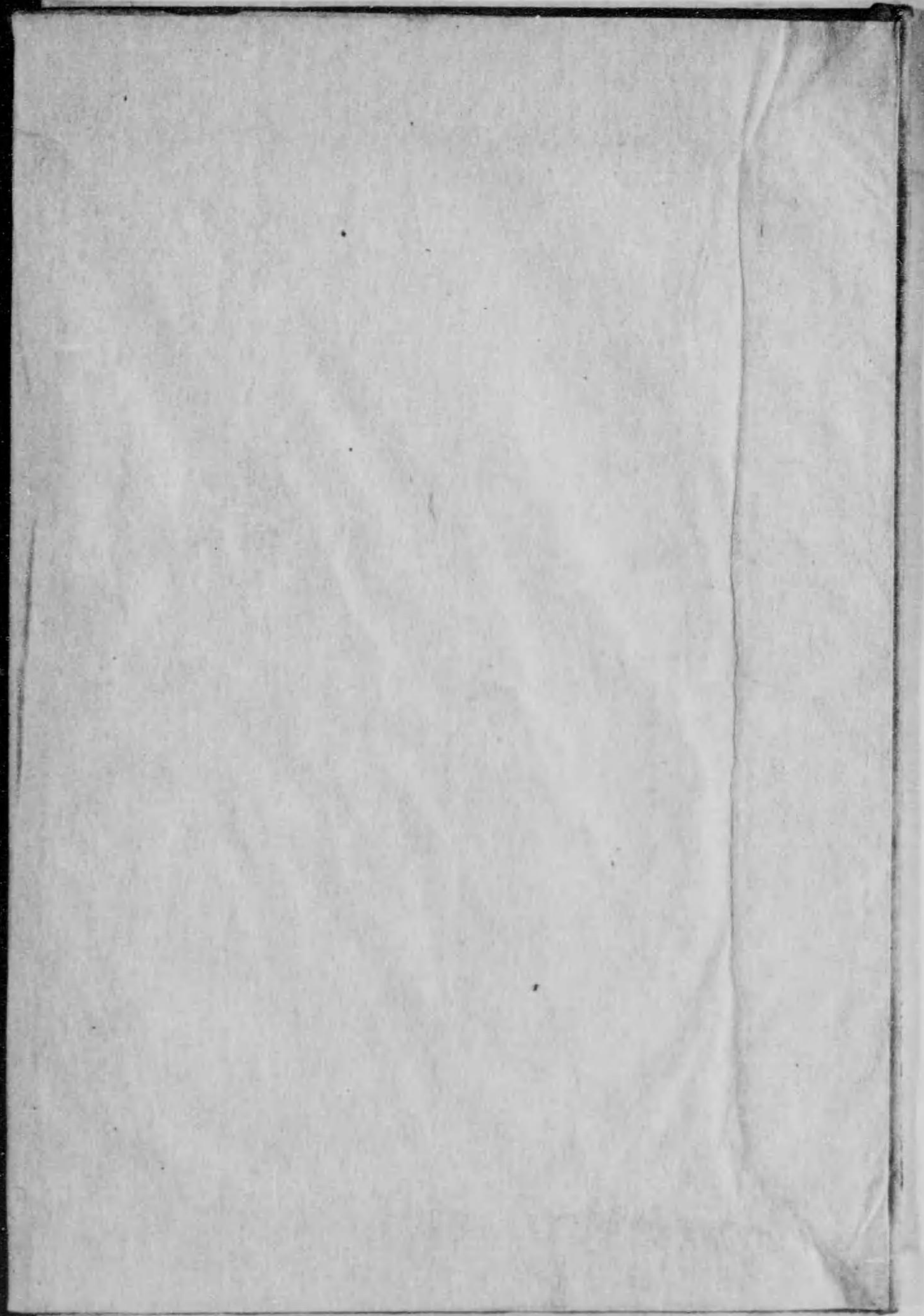


始



Handwritten text in Urdu script, oriented vertically on a light-colored strip.

15
4/3



春の風をよめるは
 花の散るをよめるは
 月夜の静けさをよめるは
 朝露の清さをよめるは
 夕陽の紅さをよめるは
 雪の白さをよめるは
 雨の音をよめるは
 雷の音をよめるは
 風の音をよめるは
 鳥の音をよめるは
 虫の音をよめるは
 人の音をよめるは
 神の音をよめるは
 鬼の音をよめるは
 妖の音をよめるは
 魔の音をよめるは
 精の音をよめるは
 霊の音をよめるは
 魂の音をよめるは
 魄の音をよめるは
 魂の音をよめるは
 魄の音をよめるは

あまのこゝろ

春の風をよめるは
 花の散るをよめるは
 月夜の静けさをよめるは
 朝露の清さをよめるは
 夕陽の紅さをよめるは
 雪の白さをよめるは
 雨の音をよめるは
 雷の音をよめるは
 風の音をよめるは
 鳥の音をよめるは
 虫の音をよめるは
 人の音をよめるは
 神の音をよめるは
 鬼の音をよめるは
 妖の音をよめるは
 魔の音をよめるは
 精の音をよめるは
 霊の音をよめるは
 魂の音をよめるは
 魄の音をよめるは



春の風をよめるは
 花の散るをよめるは
 月夜の静けさをよめるは
 朝露の清さをよめるは
 夕陽の紅さをよめるは
 雪の白さをよめるは
 雨の音をよめるは
 雷の音をよめるは
 風の音をよめるは
 鳥の音をよめるは
 虫の音をよめるは
 人の音をよめるは
 神の音をよめるは
 鬼の音をよめるは
 妖の音をよめるは
 魔の音をよめるは
 精の音をよめるは
 霊の音をよめるは
 魂の音をよめるは
 魄の音をよめるは

いづれもあはれなる

いづれもあはれなる
 人の心もあはれなる
 のきりくすそくして
 をあてぬよき梅の花
 かれうとあす春の
 ありあけくは
 らくしあ
 いづれもあはれなる
 ありあけくは
 らくしあ
 いづれもあはれなる
 ありあけくは
 らくしあ



いづれもあはれなる

いづれもあはれなる
 人の心もあはれなる
 のきりくすそくして
 をあてぬよき梅の花
 かれうとあす春の
 ありあけくは
 らくしあ
 いづれもあはれなる
 ありあけくは
 らくしあ
 いづれもあはれなる
 ありあけくは
 らくしあ



いづれもあはれなる
 ありあけくは
 らくしあ



松竹梅の三つ葉
春の風を吹かす
花の香りをかぐ
月夜を照らす
星の光をまなす
雲の影をたぐす
雨の音をたづなふ
雪の音をたづなふ
雷の音をたづなふ
嵐の音をたづなふ



春の風を吹かす
花の香りをかぐ
月夜を照らす
星の光をまなす
雲の影をたぐす
雨の音をたづなふ
雪の音をたづなふ
雷の音をたづなふ
嵐の音をたづなふ

○ 春の風を吹かす

Handwritten text in a cursive script, likely a poem or narrative passage, located at the top of the right page.

○ 大和歌集

Handwritten text in a cursive script, continuing the poem or narrative, located below the section header on the right page.



Handwritten text in a cursive script, likely a poem or narrative passage, located at the top of the left page.

○ 大和歌集

Handwritten text in a cursive script, continuing the poem or narrative, located below the section header on the left page.



Handwritten text in a cursive script, likely a form of Urdu or Persian, arranged in approximately 15 lines. The text is written in a fluid, connected style.



Handwritten text in a cursive script, likely a form of Urdu or Persian, arranged in approximately 15 lines. The text is written in a fluid, connected style.



今に於ては
 今に於ては
 今に於ては
 今に於ては
 今に於ては
 今に於ては
 今に於ては
 今に於ては
 今に於ては
 今に於ては

今に於ては
 今に於ては
 今に於ては
 今に於ては
 今に於ては
 今に於ては
 今に於ては
 今に於ては
 今に於ては
 今に於ては



今に於ては
 今に於ては
 今に於ては
 今に於ては
 今に於ては
 今に於ては
 今に於ては
 今に於ては
 今に於ては
 今に於ては



15
413

印行二百部之内
第三十號

會製版書種

發行所 米山堂
東京市牛込區宮久町八十四番地
印刷者 阿部鶴五郎
影刻者 大塚祐次
編輯兼發行者 山田清作

大正十三年八月五日印刷
大正十三年八月八日發行

第三十期
第廿一同

Handwritten text in a cursive style, likely a preface or introduction, enclosed in a rectangular border.

天和二年

正月日

ワカ新報

15
413

413

終

